

## 桜島の火山活動解説資料

福岡管区气象台  
地域火山監視・警報センター  
鹿児島地方气象台

<噴火警戒レベル5（避難）を継続>

本日（25日）、気象庁機動調査班（JMA-MOT）が実施した現地調査では、風下側にあたる桜島島内の桜島白浜町から黒神町にかけてやや多量の降灰を確認しましたが、小さな噴石は確認されませんでした。赤外熱映像装置による観測では、昨日（24日）20時05分の爆発に伴い、監視カメラで約2.4kmを超える噴石の飛散を確認した南岳東斜面に、大きな噴石による明瞭な落下痕は認められませんでした。

桜島では、山体膨張は概ね停滞しており、現在のところ規模の大きな噴火が発生する兆候は認められません。ただし、今後も同程度の噴火が発生する可能性があります。

### 【防災上の警戒事項等】

南岳山頂火口及び昭和火口から概ね3km以内の居住地域（鹿児島市有村町及び古里町の一部）では、大きな噴石に嚴重な警戒（避難等の対応）をしてください。また、概ね2kmの範囲では火砕流に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るため注意してください。爆発に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。なお、今後の降灰状況次第では、降雨時に土石流が発生する可能性がありますので留意してください。

### ○ 活動概況

桜島では、昨日20時05分に南岳山頂火口で爆発が発生し、弾道を描いて飛散する大きな噴石が火口から東方向へ約2.4kmを超えて飛散しました。その後は、爆発や噴火が時々発生し、噴煙は最高で火口縁上2,200mまで上がり、雲に入りました。爆発に伴う噴石の飛散は、雲のため確認できていません。

本日、気象庁機動調査班（JMA-MOT）が実施した現地調査では、山頂付近は雲に覆われており、火口周辺の状況は不明でした。赤外熱映像装置による観測では、昨日（24日）20時05分の爆発に伴い、監視カメラで約2.4kmを超える噴石の飛散を確認した南岳東斜面に、大きな噴石による明瞭な落下痕は認められませんでした。また、風下側にあたる桜島島内の桜島白浜町から黒神町にかけてやや多量の降灰を確認しましたが、小さな噴石は確認されませんでした。

桜島島内に設置している伸縮計では、昨日20時05分の爆発の後も、噴火及び爆発が時々発生し、噴火前のわずかな山体の膨張及び噴火後のわずかな収縮が観測されました。なお、7月18日09時頃から観測されているわずかな山体膨張は概ね停滞しています。

火山性地震は少ない状態で経過しています。火山性微動は観測されていません。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<https://www.data.jma.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)）でも閲覧することができます。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。  
（<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>）

この資料は気象庁のほか、国土地理院、九州地方整備局大隅河川国道事務所、京都大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び鹿児島県のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』『基盤地図情報』を使用しています。

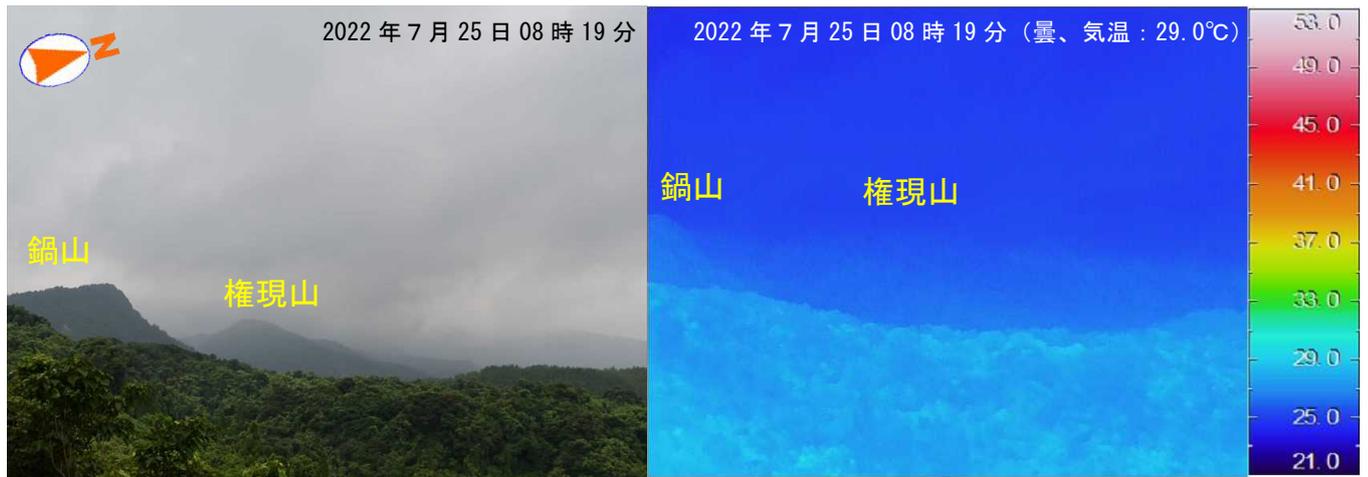


図 1-1 桜島 南岳の可視及び地表面温度の状況（桜島の東側（黒神町県道 26 号線沿い）から観測）

本日（25 日）、気象庁機動調査班（JMA-MOT）が実施した現地調査では、山頂付近は雲に覆われており、火口周辺の状況は不明でした。赤外熱映像装置による観測では、昨日（24 日）20 時 05 分の爆発に伴い、監視カメラで約 2.4km を超えて噴石の飛散を確認した南岳東斜面に、大きな噴石による明瞭な落下痕は認められませんでした。



図 1-2 黒神町の降灰状況

本日（25 日）、気象庁機動調査班（JMA-MOT）が実施した現地調査では、桜島白浜町から黒神町にかけてやや多量の降灰を観測しました。なお、小さな噴石は確認できませんでした。



図 2 桜島 現地調査観測位置及び撮影方向

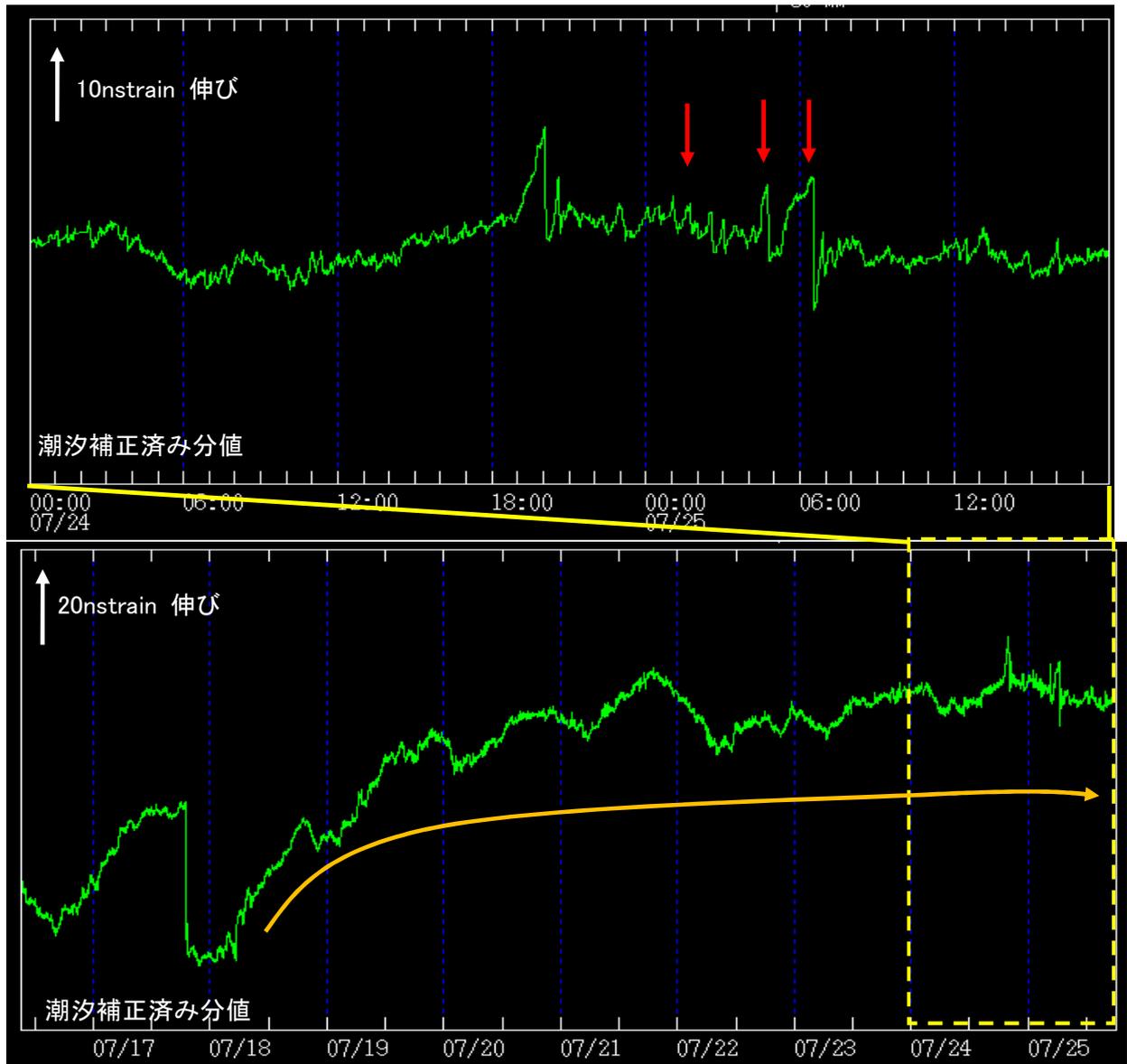


図3 桜島 伸縮計による地殻変動の状況

(上段: 2022年7月24日00時~7月25日18時、下段: 2022年7月16日09時~7月25日18時、  
有村坑道観測点伸縮計火口直交成分(大隅河川国道事務所設置))

桜島島内に設置している伸縮計では、昨日20時05分の爆発の後も、噴火及び爆発が時々発生し、噴火前のわずかな山体の膨張及び噴火後のわずかな収縮(赤矢印)が観測されました。

なお、7月18日09時頃から観測されているわずかな山体膨張(橙矢印)は概ね停滞しています。

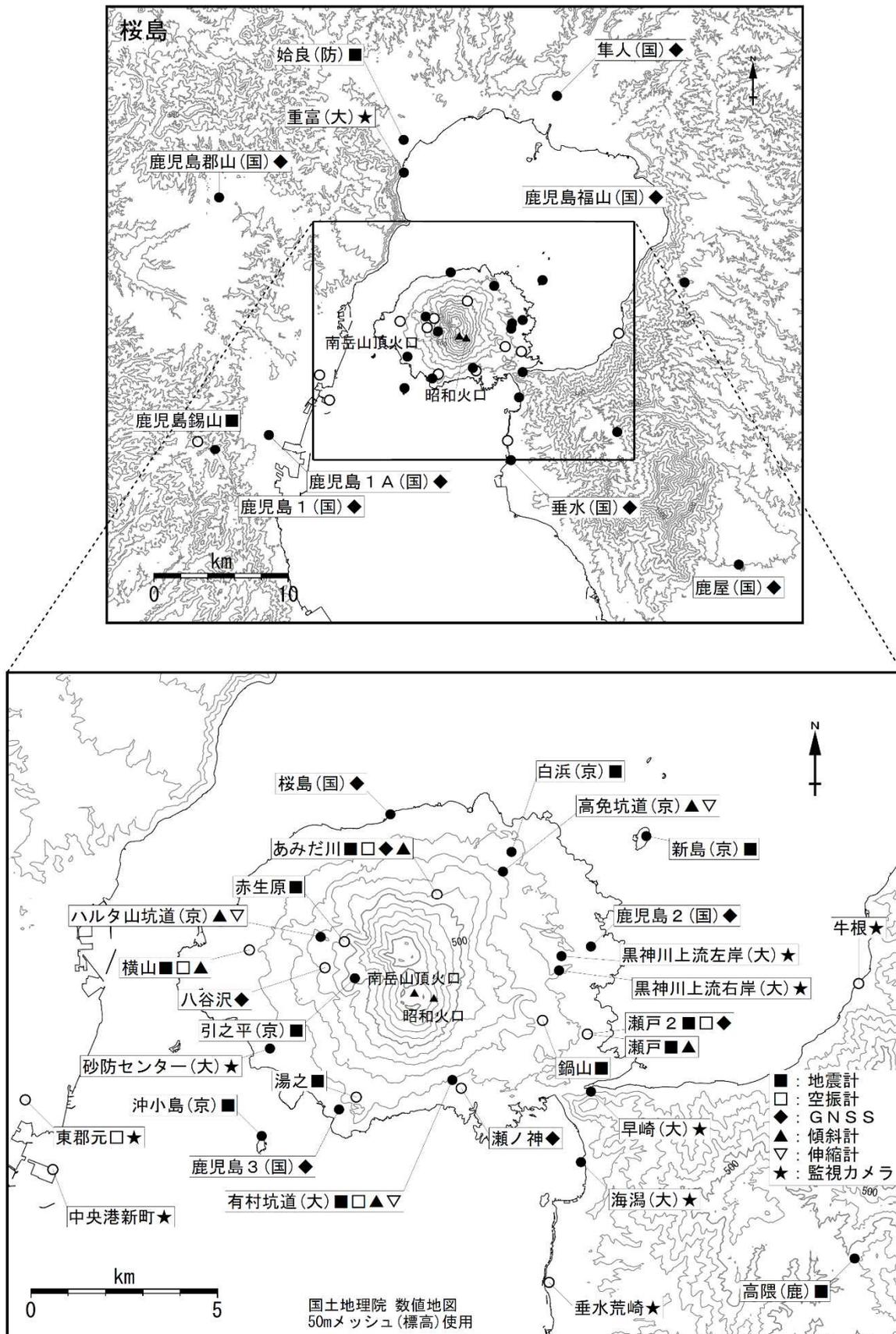


図4 桜島 観測点配置図

小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
 (国)：国土地理院、(大)：大隅河川国道事務所、(京)：京都大学  
 (鹿)：鹿児島大学、(防)：防災科学技術研究所